

---

# 夢日記

狂風師

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夢日記

### 【Nコード】

N7499N

### 【作者名】

狂風師

### 【あらすじ】

ゆめにつきをやり始めた主人公。

そして夢日記へと興味を持って・・・

(前書き)

主人公：宮本渚      友達：八田優香

原作は「ゆめにつき」

ネタバレを含むので、未プレイの方は注意。そしてラストまで見えない方も注意。

「はいこれ。やってみてよ」

スカイプで友達からそう言われて送られてきた、1つのURL。

これが、これから起こる物語の引き金となると知らずに。

## 夢日記

時を戻して学校。クラスの賑やかな声の昼放課。

いつも通り友達（女）とお喋りをしていた。他2人もいたが、どこか行ってしまった。

今は2人だけ。

「今日さ、スカイプで面白いフリーゲームのURL送るからさ。パソコンつけてといてね」

「うん、わかった」

それを言うと、どこかへ行って……。どこかじゃないね。自分の席に戻っていった。

えっと……。自己紹介がまだだったね。私は宮本渚<sup>みやもとなぎさ</sup>。高校1年生。

後は・・・何言えばいいかな？ あっ、名前からわかる通り女だからね。

それから・・・

「なーにブツブツ言ってるのさ」

急に話しかけられて、変な声が出る。

「アハハハ『ひゅい！』だってさ。かわいっ」

「もう・・・やめてよね・・・」

今話しているのが、友達の八田優香はったゆうか

さっき、『フリーゲームのURLを送る』って言った人。

古くからの友達で、保育園、小学校、中学校、高校、とずっと一緒にいる。

「でさ、さっき言ってたフリーゲームってどんなの？」

「ひみつー。やってからのお楽しみってこと」

「じゃあ期待しないで待ってるね」

そして今に至る。夜の11時32分。

送られてきたURLに飛んでみると・・・

「・・・ゆめにつき？」

スカイプで友達に確認。

「『ゆめにつき』で、いいんだよね？」

「あってるよ」

どうやらこれらしい。とりあえずダウンロード。

「それじゃあ私は寝るね。暗いと怖いかもねー。おやすみ」

そう言ってログアウトした友達。暗いと怖い？ ホラーなのか。

ダウンロードも終わったし、解凍もしたし。やってみようかな。

そうして始めた『ゆめにつき』

最初は何が何だかわからなかった。

気味の悪い部屋をちよつと見て戻る。また、別のドアへ。また戻る。

ほとんど気味の悪い部屋ばかりだったが、1つだけ、よさそうな部屋があった。

## 雪の部屋

自分で名付けた。一面、雪で覆われていて木が生えている。

歩いていくうちに、鎌倉を見つけた。誰か寝ている。

まあいいや。探索に戻る。と、歩いている。女性だろうか。

ゆきおんな

「なに？ これ・・・」

話しかけると『エフェクト』というのを貰った。これを集めるのかな？

気付いたら、もう夜中の1時。エフェクトも集まってきた。

じてんしゃ、ほづちょう、こびと・・・など、その他にもつちょうつじ。

でも正直、意味が無いようなものばかり。『ほづちょう』は怖いし。

そろそろ寝ようかな。明日も学校だし。

夢から覚めて、セーブをする。

「なっちゃん、どうだった？」

『なつちゃん』というのは私の事。『なぎさ』だから『なつちゃん』

「ゆめにつきのこと？ 中々面白いと思うよ」

「そう、それならよかった。あのゲームは、好きな人と嫌いな人がはっきりと分かれやすいから」

家に帰ってきて続きをやる。

それにしたって『エフェクト』はいくつあるのだろうか。

もうそろそろ、どこに行けばいいのか、わからないし・・・と  
思っ  
て  
検  
索  
を  
し  
た。

ゆめにつき と打ったところ

・ ゆめにつき ダウンロード

・ ゆめにつき 攻略

・

・

・

・ 夢日記 気が狂う

・ 夢日記 危険

「ゆめにつき・・・」

気になり、そのワードを検索してしまった。

出てきたのは

『夢日記をつけると気が狂う』

見てみると、フリーゲームの方ではなく『自分が見た夢の内容を日記につける』というもの。

なんだ、ゲームの方じゃないのか。と安心して攻略サイトへ・・・  
と思ったが

プレイ動画を発見した私は、そちらに飛びついた。

何日で終わらせただろう。動画を見つつ、それと同じ行動をしていた。

ラストっぽい場面で動画を止めて、ラストを見た。

どうなったかは言わないが、・・・うん。

友達に連絡してみる。

「終わったよ」

「ラスト見たんだ」

「うん」

・・・返信がない。

「どうしたの？」

「ん？ なんでもないよ。おやすみ」

あつ、ちよつと・・・いなくなっちゃった・・・。

じゃあゲームも終わったし、私も寝ようかな。

・・・ゆめにつきかあ・・・。

ふと、夢日記を思い出した。夢の内容を日記に書く・・・。

やってみよう。そう思った。

気が狂うなんて、そんなバカな。と思って。

よし、明日からやろう。

「おやすみなさい」

そう、ポツリとつぶやいた。

朝起きて、夢の内容を日記に書いた。

友達と2人で・・・と言っても、私が知らない、見たことも無い友達。でもなぜか仲が良かった。

そしてその友達と一緒に、雲の上に乗って遊んだ。

うん、これは夢。我ながら幼稚な夢だと思う。

学校に行つて、いつも通りの生活。

家に帰つて晩ご飯を食べて夜中の1時に寝る。

朝。夢は見なかった。覚えてないだけかもしれない。

帰つてきて、学校の事を日記に書く。うん、これは現実。

1週間くらいこんなことをしていたが、別になんとも無い。

やっぱり夢は夢。現実には現実。狂う事なんかない。

「ウン・・・か。騙されたけど、面白かったし。ま、いつか」

そしてやっぱり、いつも通りの生活。

朝起きて、夢を見たら日記に書く。騙されたと思いつつも続けていた。

ある日、学校で友達と話していた。

「昨日の、学校が終わった後に行ったところこうよー」

これは私の台詞。が、友達是不思議そうな、心配そうな顔でこちらを見る。

「なっちゃん・・・昨日の帰りの事覚えてる・・・？」

えっ？ どういうことだろう？

「昨日の帰りは、優ちゃんと天ちゃんと私の3人で寄り道して、アイスクリーム屋に行った・・・よね？」

友達はさらに心配そうな顔で、私を見つめる。

「・・・天ちゃんって誰？ 私知らないよ？」

目の前が真っ暗になった。どうして・・・？昨日3人で吐き気がする。

そうだ。これは夢の話・・・。ポニーテールの友達は夢の中の友達・・・。

「ねえ、大丈夫？ 熱とかあるんじゃないの？」

「う、ううん。大丈夫。心配しないで」

なおも心配そうな顔で見つめる友達。

授業のチャイムが鳴り、友達は自分の席に戻っていった。

家に着いて、あの日記を読み返す。

・雲の上に乗って遊んだ事。　これは夢。

・友達とCDショップに行ったこと。　これは現実。

・雨に打たれながら学校から帰った事。　これも現実。

・友達と山に行ったこと。　これも・・・現実・・・？

・友達と家で遊んだ事。これは・・・夢・・・？

・学校の委員会で友達と喋りながら仕事をした事。　これは・・・？

頭の中がグラグラと揺れる。

途中から夢だったのか現実だったのか、わからなくなる。

今いる世界は現実。・・・多分そう。そして今から寝るから、それが夢、のほず。

未だに揺れている頭の中を無視して、眠る。

友達に聞いた。これは夢？と。

友達は答えた。これは現実。

そっか。じゃあ、今から眠るから、そっちが夢か。

友達に聞いた。これは夢？ と。

友達は答えた。現実だよ？ ねえ、本当に大丈夫？

そっか。じゃあ、次眠るときが、そっちが夢か。

家に帰ってまた寝る。すぐに眠る。

これは夢？ 現実？

これは現実、と返ってくる。

あれも現実。これも現実。じゃあ夢は？

どっちかが夢で、どっちかが現実。

どちらの世界が夢なのかわからない。いつも、いつも、現実、現実。

もうイヤだ。現実ばかり。

心が病んでいたのだろう。いや、心だけではないだろう。

本当の現実か、本当の夢の世界なのか。

気付いたときには学校の屋上の手すりの向こう側にいた。

目の前には校庭が広がる。足元には、幅20センチの足場。

ふっ、と体が下に落ちる。地面がどんどん近づいていた。

あなたが今いる世界は、本当に現実ですか？

(後書き)

模試中、暇だったから書いてしまった。時間が余るんだもの。

今回は、フリーゲームの「ゆめにつき」に関連した物語。

nobodyさん・・・もとい天音宗胡さんの作品を思い出し、書いた。

これから模試の度に1作品づつ書いていこうかな。なんて。

あなたは今、現実の世界にいる。という自信がありますか？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7499n/>

---

夢日記

2010年10月11日01時27分発行